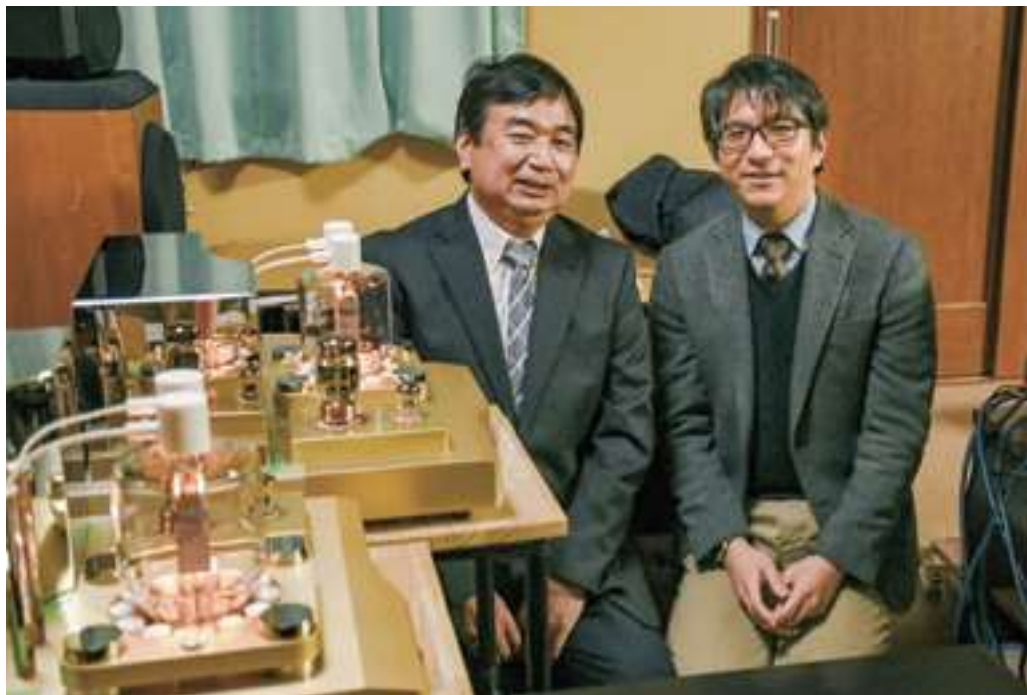




挑戦と  
創造の  
あかし

# TEAM NEXT YONEZAWA



## 究極の音を求めて 真空管アンプしか作らない

ウエーブ  
WAVAC Audio Lab. (有限会社タックリサーチ)



WAVAC Audio Lab. 代表取締役社長の松木康倫さん(左)と、(有)タックリサーチ開発技術部主任研究員の吉澤匠さん(右)。インタビューの中で「日本国内向けの新製品を作ります」と力強い言葉をいただきました。

▲ WAVAC Audio Lab. (有限会社タックリサーチ) の取り組みはこちら



今回取材した、真空管アンプ SH-833 (電源フルセット)。総重量 500kg。海外向けのハイエンドモデルだったが、ふるさと納税の返礼品として初めて国内でも入手可能に。必要寄附額は 1 億 4,700 万円で 2022 年 12 月 7 日現在国内 2 位の高額返礼品。

「5千万円超の真空管<sup>※</sup>アンプセットがオーストラリアに出荷される」との情報を得た取材班。幸運にも最終テストに立ち会うことができました。「まずは音楽を聴きましょう」と言葉ではなく音楽で語る松木さん。  
早速耳を傾けると、まだ音楽が鳴らないうちから驚かされます。「サーツ」という電源ノイズが一切聞こえません。呼吸さえ躊躇<sup>ため</sup>う静かな空間に、音がシルクのように滑らかに響きます。音の広がりも素晴らしく、まるで音のプールに飛び込んだかのように全身が包まれました。それでいて、音の出所に奥行と幅があり、目の前に楽団がいるかのように。目を閉じればそこはコンサートホール。しかし、真空管アンプの良さはむしろ目を開けてこそ感じられるものでした。暖かなオレンジ色の光が美しく、音楽観賞を耳だけでなく目でも楽しむ時間に変えてくれます。  
半導体を使った小型・軽量・低価格のデジタルアンプが主流の時代にあえて真空管アンプを作り続けるのは、「デジタル変換される際に消えてしまう音の「本来の姿」を丁寧に拾い上げ「最高の音」を作るため。世界中から注文を受ける理由を全身で感じられました。

### 「米沢市役所 TEAM NEXT YONEZAWA」の取り組み

米沢市役所が取り組む米沢品質向上運動の具体的な取り組みとして、市役所への満足度調査「市役所あるあるアンケート」を募集しています。右の二次元コードから米沢市役所 TNY のページに進めますので、そちらのコメント欄に米沢市役所を利用してお気づきの点等をご記入ください。

関係各課で情報を共有し、より良い市役所を目指してまいります(原則としてコメントへの返信は行いませんのでご了承ください)。



TEAM NEXT  
YONEZAWA



<sup>アンプリファイア</sup>  
※アンプ: 英語の「amplifier」から来ており、日本語にすると「増幅器」と訳される。CDなどの音源から出力された信号は非常に弱く、アンプを通して増幅されることでスピーカーから大音量で放出される。手軽に使えるアンプ内臓(アクティブ)スピーカーも多く流通している。